

PROGRAM

エール交歓

東京工業大学歌 東京工業大学シュバルペンコール 指揮/福富 平記
京都大学学歌 京都大学男声合唱団 指揮/岡本 基良
Die Wacht am Rhein 岡山大学男声合唱団コール・ロータス 指揮/野瀬 博昭
筑紫之詠 九州大学男声合唱団コールアカデミー 指揮/実延 秀昭

I. 男声合唱組曲「雪と花火」

東京工業大学シュヴァルペンコール 指揮/福富 平記
恋 伴奏/松本 恵理
彼岸花 作曲/信長 貴富
芥子の葉 作詞/北原 白秋
花 火 作曲/多田 武彦

II. 男声合唱とピアノのための「新しい歌」

京都大学男声合唱団 指揮/岡本 基良 伴奏/松本 恵理
新しい歌 伴奏/松本 恵理
うたをうたうとき 作詞/フェデリコ・カルシア・ロルカ 作曲/信長 貴富
きみ歌えよ 訳/長谷川 四郎
鎮魂歌へのリクエスト 作詞/まど・みちお 作詞/谷川 俊太郎
一詩人の最後の歌 作詞/ラングストン・ヒューズ 訳/木島 始
作詞/ハンス・クリスチャン・アンデルセン 訳/山室 静

III. 男声合唱組曲「柳河風俗詩」

岡山大学男声合唱団コール・ロータス 指揮/野瀬 博昭
柳河 伴奏/野瀬 博昭
紺屋のおろく 作詞/北原 白秋
かきつばた 作曲/多田 武彦
梅雨の晴れ間

IV. Die Deutschen Lieder ～ドイツの歌～ 九州大学男声合唱団コールアカデミー

Hymne an die Nacht. 夜の讃歌 作曲/L・V・ベートーヴェン 作詞/L・V・マッティゾン 指揮/実延 秀昭
Erstes Grün. 新緑 作曲/R・シューマン 作詞/J・ケルナー
Blauer Montag. 青い月曜日 作曲/F・オットー 作詞/R・ライニク
Märznacht. 3月の夜 作曲/C・クロイツァー 作詞/L・ウーラント

————— 休憩10分 —————

V. LATIN ～ラティン～

ANDALUCIA アンタルシア
CORDOBA コルドバ
CABÓCA DE CAXANGÁ カジャンガの岬
MALAGUENA マラケニーヤ

四大学合同演奏

指揮/横田 諭
伴奏/樋口 梨絵
作曲/エルネスト・レクオーナ
編曲/藤井 凡大
訳詞/野上 彰

男声四大学 Joint Concert

京大 東大 百歌 繚乱 岡大 九大

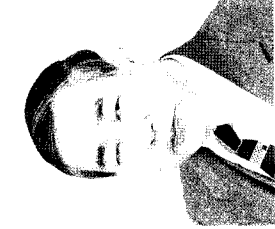
2005年8月12日(金) 開演18:00
福岡市西市民センター

主催

東京工業大学シュヴァルペンコール 京都大学男声合唱団
岡山大学男声合唱団コール・ロータス 九州大学男声合唱団コールアカデミー
後援

(財)福岡市文化芸術振興財団・福岡市・福岡市教育委員会

ごあいさつ



男声合唱はハーモニーの美しさはもちろんのこと、そこから生まれる友情と感動ははかりしれないものがあります。今宵は全国4つの国立大学から男声合唱団が集まりました。それぞれ異なった歴史と環境の中で活動をしている団員たちが、その声を競い合いながら、古き友情を温め新たな友情を育んで、精一杯の演奏を聴かせてくれるでしょう。九州大学男声合唱団コーリアカデミーの皆様は感謝しつつ、一人一人の心に深い感動の記録が刻まれるよう、期待しております。

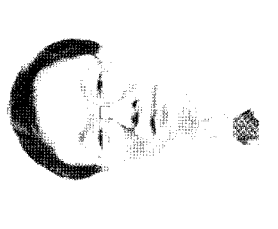
東京工業大学シヴウアルベルコン部長 **高橋 幸雄**



お忙しい中のご来場、ご参加の皆様、心より御礼申し上げます。そして九州大学コーリアカデミー、岡山大学コール・ロータス、東京工業大学シヴウアルベルコン、京都大学男声合唱団の四大学ジョイントコンサートの開催を心よりお祝いします。

私たちは他の合唱団との交流を通じて、さらなる合唱団の向上を迫及し、合唱をこまなく愛する友人たちとの連帯を求めるとも合唱団の重要な活動目標の一つだと考えております。今回のコンサートが各大学のさらなる発展の契機となり、また、聴衆の皆様の中に残る素晴らしいものとなることを念願してご挨拶と致します。

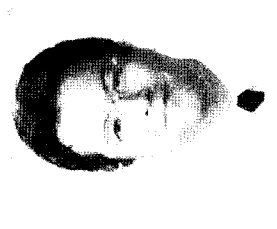
京都大学男声合唱団顧問 **松井 三郎**



2005年夏のジョイントコンサートは4年ぶりの九州公演です。

我がコール・ロータスは北原白秋の「柳河風俗詩」を歌って、皆様を明治・大正の世界にお連れするそうです。そうそう、柳川といえば福永武彦の「庵市」という小説の舞台にもなりました。そして「8月の旗本」といえば原爆の長崎・広島を思わずにはいられません。古き佳き時代に続く昭和の悲愴な時代を忘れないように、この8月を過ごそうではありませんか。明々の輪廻りを精霊の灯りが流れて行きます。

岡山大学男声合唱団コール・ロータス顧問 **田中 紀章**



本日は男声四大学Joint Concertへおいでいただきありがとうございます。

最近、若い世代の間違った悲しいニュースをよく耳にします。他人との間わりがうまくいかないことがひとつの原因のように思います。人間らしい喜怒哀楽は人との間わり合いから生まれるものです。他人との間わりをさけることで、ある頼みさから逃れることができるとも思われませんが、人生の楽しみや喜びを知る機会を失っているのではないのでしょうか。本日皆様方の前に現れますのは、他人との間わりを積極的に持とうとしている若者たちです。他人と関わらなければ生み出すことのできないものを、楽しんで皆様は披露いたします。他人のことも互にしなから、各人の個性も出つつ、ひとつのものを生み出していく様は、望ましい社会の基本形のようにも思われます。特に最終ステージは個性の異なる各大学合唱団の合同演奏となります。どうぞ御期待ください。

それでは最後までごゆっくりお楽しみください。

九州大学男声合唱団コーリアカデミー顧問 **神宮司 誠也**

5th Stage

合同演奏

LATIN 〜ラテン〜

エルネスト・レクオーナは1895年8月6日、ハバナ郊外のクアハナコアに生まれました。幼い頃よりピアノを習ったレクオーナはピアノの天才で、1928年にハリを訪れ演奏会を開いたときには、この演奏会に来ていたラウエルに「これはピアノ演奏以上のものだ!」と絶賛されたこともあるようです。さらに1度ハリに滞在していたカーシューエインからはラフソデー・イン・ブルーのスコアを譲り受け、キューバに戻ってピアノでラフソデー・イン・ブルーのキューバ初演に参加するなど、その才能は非常に高く評価されていました。

合同演奏のレクオーナの作曲した曲の中からお送りする曲はアンタルシア (ANDALUCIA)、コルドバ (CORDOBA)、カジャンカの娘 (CABÓCA DE CAXANGÁ)、マラケーニャ (MALAGUEÑA) の4曲です。いずれも非常に情緒豊かな、美しい曲です。

I. アンタルシア (ANDALUCIA) 題名にもなっているアンタルシアはアラメンコや闘牛など、スペインのイメージが全て凝縮されたスペイン南部の古都。この曲は“そよ風と私 (The breeze and I)”という題名で英語の歌詞でも歌われている優美で官能的な曲です。聞いたことある方も多いでしょう。

II. コルドバ (CORDOBA) コルドバは10世紀に最盛期を迎えたアンタルシアに程近い古都です。今は無き古の栄光を偲ぶような、哀愁を帯びた旋律が奏される、寂しくも美しい曲です。短調と長調の艶のあるからみか囃きどころです。

III. カジャンカの娘 (CABÓCA DE CAXANGÁ) 他の3曲とは趣の違うこの曲、それこそは、この曲はブラジルハリマを舞台としたものなのです。一途に男を想うカジャンカの娘の恋心を、ソロをふんたんに織り交ぜた暴激なほど明るい旋律で歌い上げます。

IV. マラゲーニャ (MALAGUEÑA) マラケーニャとはスペインのマラガ地方に伝わるギター伴奏のアラメンコのこと。

男声合唱とピアノでアラメンコの旋律を見事に歌い上げます。真夜中のバー、ギターの旋律に合わせて踊るうら若きアラメンコの踊り手。音楽を通して皆さんをその情景の中へお連れしましょう。

さあ、今宵は情熱の世界へ旅立とうではありませんか! どうぞお聞き下さい!

客演指揮者 横田 諭

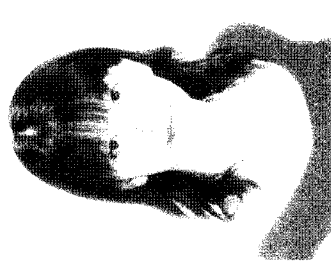
1980年九州大学理学部入学。在学中は九州大学男声合唱団コーリアカデミーに所属。学生指揮者として活躍する。故藤井凡大氏、荒谷俊治氏より音楽のみならず幅広い分野での指導を受ける。卒業後は、同団音楽顧問として後輩の指導にあたる。1997年に同団常任指揮者に就任。

コーリアカデミー以外にも、福岡コール・フレアイン、福岡男声合唱団、コール・ソルフェア!の指揮者を務めるなど、地元福岡において様々な音楽活動を精力的に行っている。



ピアニスト 樋口 梨絵

長崎県出身。2000年3月、福岡教育大学芸術コース音楽専修卒業。在学中の1999年、第27回長崎県新人発表演奏会出演。同年、第44回西日本出身新人紹介演奏会にて、審査員奨励賞を受賞。2000年、第1回九州音楽コンクール音楽一般の部において伴奏秀演奏賞を受賞。同年、第39回北九州芸術祭クラシックコンサートにおいて伴奏賞を受賞。その他、福岡・長崎を中心に演奏会に出演、伴奏・室内楽に取り組んでいる。これまでに草野幸子女史、川田山紀子女史、福田伸光氏に師事する。現在、長崎純心大学非常勤講師。



1st Stage

東京工業大学シユヴァールベソソコ−ル

シユヴァールベソソコ−ルを紹介するにあたり、まず理解しておかなければならないこと、それはこの団体が理系学生のみからなるということである。これはこのサークルが東京工業大学という理系の大学のサークルということであり、インカレをしてくれる女子大が無いことなどに起因する。ならばこのサークルを理解するのに、理系的なアプローチをとって分析することが一番の近道であろう。以下に示す法則や原理はこの団体の理解への理系的なアプローチの具体例である。

- 出席率保存の法則

定期演奏会前と普段の練習で出席率は常に一定で変化しないこと。つまり出席率は時間の経過によらないということである。この法則は演奏会前などは学指揮がはりきり練習が長くなるので団員のモチベーションが下がることが、かといって普段の練習をかんばろうといったモチベーションを団員が持っている訳ではないというモチベーション上かららずの法則から導き出せる。

- 幸せ量保存の法則と排他原理
例えはあるシユヴァールの一人に彼女ができたこととすると、その彼女がいる一人はとても幸せになるか残されたシユヴァール軍団はそのことを羨みとても不幸せな気分になり結局サークルという全体の系の中では幸せ量は保存される。またその一人に対し全体に対しては隠蔽され、その一人を排他する方向にベクトルの向きが変換される。

男声合唱組曲「雪と花火」

男声合唱組曲「雪と花火」は北原白秋の詩集「雪と花火」から四篇をとってかかれたものです。詩集「雪と花火」の前身である『東京景物詩』には、白秋自身述べているように一貫した主題に乏しいのですが、共通点としては、東京の風俗、人情が深く描き出されています。「雪と花火」は多田武彦氏の50余に及ぶ作品の中でも初期の部類に入ります。とはいえ、多田氏自身の言葉にある、「作曲を通じて日本の詩や心をより一っそう深く見つめる為、美しく感動的な詩を平易な作曲技法で作曲する」という精神が見事に示されている作品といつてよいでしょう。

- 片恋　秋の早朝、夜明け前の薄明かりに色づいた、アカシヤの葉が散ってゆく。冷気の中に散ってゆくその葉の美しさに、不意に恋しい人の唇から息が漏れる。
- 彼岸花　「どうせ湿地の彼岸花」と我が身を自嘲しながらも、昔の恋人を忘れることのできないう女　どんなに彼岸花がはででやかに赤くその上を歩もついでようと、所詮は茎の細い儂いものであることを例えている
- 芥子の葉　どんなに美しい芥子の花が散っても葉は知らん顔をして生え続けているのに、人という生き物は、そういうわけにはいきかず、何の縁もないものにさえ自身の姿を重ねたくなるところに行き場のない思いが感じられる。
- 花火　隅田川の花火大会を情盛鬱かに描いた曲。華音と共に夜空を彩る孔雀正と、浴衣姿で涼をとりながら年に一度の花火大会を楽しむ人々とが、東京独特の風情を醸し出す。



学生指揮者 福富 平記

彼が学指揮になったのは、決してとど抜けた音楽センスがあったからではない、ただ彼の手拍子している姿がシンバルを持ったゴリラのおもちゃに似ていただけだ。

学指揮になり早半年、好きこそもののとはよく言ったもので、もうすっっぱり我々のリーダーとしてみんなをまとめる、斬れる学指揮に成長した。今回は彼の故郷、九州での凱旋コンサートだ。お母さんを見えますか？息子さんには一向に彼女ができてくる様子はないけど、部員たちはみんな息子さんが大好きですよ！僕はお母さんの送ってくれる明太子が大好きです。とんどん送ってやってください。

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
柏井 辰介 (5・生科・岡山白陵) 石塚 大樹 (3・精工・仙台青英) 副根 滄人 (3・生科・城北埼玉) 三澤 圭彦 (3・生工・国学院大和山) 岩根 勇介 (2・電電・広島大附属) 山田 純也 (2・経営・浜松北) 石川 大介 (1・1類・浜松) 岩月 栄治 (1・4類・岡崎) 西野 雄大 (1・7類・三国丘) 林 達也 (1・3類・国立)	八名 拓実 (M1・機和・聖光学園) 石田 和徳 (3・機北・昭和薬大附属) 高橋 雄作 (3・化工・鶴丸) 戸泉 貴裕 (3・物理・光陵) 佐川 正記 (1・4類・多治見北) 田中 大丸 (1・1類・釧路湖陵) 平山裕一郎 (2・経営・明治学園) 石川 佳徳 (1・4類・高崎) 近藤 洋介 (1・3類・菊里) 坂村 圭 (1・6類・武蔵) 鶴田 祥悠 (1・7類・大阪星光) 政本 晃希 (1・6類・攻玉)	浦川 良輔 (4・電電・長崎北) 甲賀 亮平 (3・電電・藤枝東) 野間 平記 (3・生科・広島大附属) 福富 貴裕 (3・物理・新島) 斉藤 拓也 (3・地惑・千葉東) 鈴木 俊佐 (2・生工・都立学園) 鈴木 徳 (1・4類・高崎) 石川 佳徳 (1・4類・高崎) 近藤 洋介 (1・3類・菊里) 坂村 圭 (1・6類・武蔵) 鶴田 祥悠 (1・7類・大阪星光) 政本 晃希 (1・6類・攻玉)	祝野 正孝 (M1・高分子・攻玉社) 川谷 泰弘 (M1・化学・鈴鹿) 栗田 泰徳 (3・土木・湘南学園) 江村 和仁 (2・仮経営・新潟) 萩原 哲也 (2・電工・札幌北) 奥平 賢治 (1・2類・岡崎) 長坂 仁 (1・1類・岡崎)

2nd Stage

京都大学男声合唱団

我が団は、今年で創団74年となった長い歴史を持つ合唱団です。普段は京都府ラウエンコ−ルと共に京大合唱団の名で混声合唱にも取り組んでおります。そんな我が団の特徴は全てを学生が担っているところです。音楽作りから団運営まで、持つエネルギーを余すところなく日々の活動に使い、明るく学生運営ならではであり、私たち自身もそれを誇りに思っています。今宵、男声合唱団としての活動の最高の登舞台であるこのステージで、若さを燃やし尽くす姿、どうぞご覧ください

男声合唱とピアノのための「新しい歌」

「うた」をうたうこと。「うた」は僕達に、他では得ることのできなさいませまなものを与えてくれます。この曲集に用いられた五人の詩人は、それぞれ全く異なった立場で「うた」に接してきた人たちです。彼らの「うた」に対する思いはそれぞれですが、うたうことで何かを変えたい、そしてより高みに行きたい、という気持ちは共通しています。そして、その気持ちは歌い手である僕達にも共通しています。だから、僕達は「うた」をうたうのです。そして今夜、人の心を突き動かす「うた」が皆様の心に届きますように…

- 新しい歌**　ロルカは、「当時内乱の絶えなかったスペインを生きた詩人です。この曲は、単純に“New song”ではなく、“Revolutionary song”として歌いたい。高らかに希望を歌い上げ、現実を目を移すと、いままきに希望が生まれるようにと書いていました。

- うたをうたう　とき「うた」は人の心を映す鏡といえるのではないのでしょうか。少年のように無邪気で純粋な心で「うた」のもつ包容力を存分に表現します。

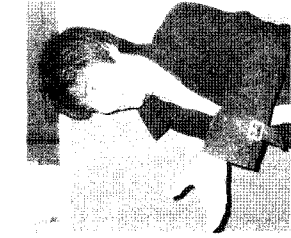
- きみ歌えよ　いくら言葉を尽くしても他の人々に伝わらない思い。そして孤独感。けれどそんなときでも、「うた」はそっと手をさしのべてくれるのです。

- 鎮魂歌へのリクエスト　ヒューズは黒人文芸復興の中心人物で、「セント・ルイス・ブルース」「セント・ジェームズ病院」はブルースの名曲です。「うた」があれば孤独にはならない、そんな「うた」への渴望にあふれています。

- 一詩人の最後の歌　童話作家として知られるアンデルセンは、今からちょうど130年前の8月に他界しました。神に、後世の人々の財産となるものを残せたことへの感謝をし、現世に別れを告げます。しかし彼は神だけでなく、これまでの自分の財権を取りまくるすべての人やものに對しても感謝を心から述べ、最後の言葉とします。

ピアノ伴奏 松本 恵理

松本先生とは、去年一年間、混声活動でご一緒させていただきました。今回は男声、しかも九州で本番というのにも関わらず、快く引き受けてくださいました。普段はかわいらしい方ですが、練習になると、繊細さも力強さも兼ね備えたピアノで歌に力を与えてくださいます。



学生指揮者 岡本 基良

おかもちともよし、通称おかもちよし、通称おかもちよし　持ちネタは微妙に似ているモノマネと自分の過去の失恋話。自らの身を削ってアンサンブルで団員の士気を上げようとする彼の姿に感動する団員がいりいなかったり・・・　かくいう筆者は彼にネタにされている身なのであまり感動はしませんが　しかし、今宵、彼の指揮する「新しい歌」は本物です。そんな彼の指揮する姿に感動するお客様がいたりいなかったり・・・　かくいう筆者は感動するつもりです

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
菊野 雄大 (法4・京知) 平手 健一 (経科・愛知) 松林 和也 (理4・京葉) 寺本 耕平 (理3・香葉) 牧野 圭一 (理3・香葉) 阿野 昌展 (工2・福岡) 石松 昌展 (工2・山鹿) 長尾 道章 (工2・兵庫) 望月 秀雄 (理1・長野)	菅一 俊彰 (経科・愛知) 良浩 庄平 (工4・福岡) 大和 慎也 (経科・大塚) 野口 公博 (理3・愛媛) 大友 良祐 (農2・兵庫) 奥田 寛 (工2・大塚) 小嶋 敏大 (理2・千代田) 遠藤 純 (理1・大塚) 丸山 悠輝 (文1・北海)	荒西 俊彦 (工4・広島) 井沢 種 大西 貴更 (工4・愛媛) 関本 美弘 (工4・愛媛) 川田 浩史 (工3・兵庫) 桑田 有仁 (工3・福山) 西村 一馬 (工2・大阪) 藤田 明也 (農2・大塚) 伊藤 剛士 (文1・群馬) 岸岡 陽介 (工1・大塚) 小坂 集也 (工1・三好) 中辻 達雄 (経科・埼玉)	飯野 通隆 (工4・京都) 弘中 幸治 (理4・山口) 岡本 基良 (工3・兵庫) 田中 康弘 (工3・大阪野知) 町田 幸善 (工3・高野良) 川口 裕貴 (理2・奈良) 竹畑 徳重 (理2・大阪) 山口 祥平 (工2・福岡) 石渡 隆之 (文1・神奈川) 沖原 英治 (文1・高知) 呂 眞 赫 (経科・韓国)

3rd Stage

岡山大学男声合唱団コール・ロータス

こ米場の皆様こんにちは、岡山大学男声合唱団コール・ロータスです。今年も多くの新入生を迎えることができ、来年1月21日に行われる第45回記念定期演奏会を今年11年の目標に、日々練習に励んでいます

遊ぶ時はとことん遊び、しめる時はしっかりしめる。時には、はしゃぎすぎて羽目をはずしてしまふこともありますが、やるべき時には団員が一丸となって行動できる、それがロータスです

また、各々がロータスを受し、ロータスマンであることに誇りを持っています。今宵のステージで我々の心からの歌、合唱を愛する気持ちを皆様にお伝えできれば幸いです

男声合唱組曲『柳風俗詩』

柳風俗詩 は北原白秋の詩集『思ひ出』の中に取られている。
第1曲 「柳河」は、白秋の郷里である柳河の夕暮れ時の光景を歌者に託して歌った序章である。

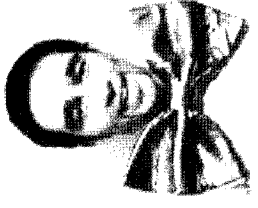
第2曲 「細屋のおろく」は、若者たちの美しい女への憧れと反感を交互に歌っている。曲中で「潮にはままって死ぬばばい」とは云ったものの、本心は死んでは困るので「ホンニ…ホンニ…」と中途半端な合鍵をうたせて、この年代の男心を細かくあらわしている。

第3曲 「かきつばた」は、頼れた城下町にわびしくすまう花街の女を、柳河の溝渠に咲く「かきつばた」に託して歌っている

第4曲 「梅雨の晴れ間」は、ふと柳河を訪れたしがない旅役者の生活を終始変わらぬ軽快なリズムで歌い、曲を終わりに導いていく。

学生指揮者 野瀬 博昭

コンニチハ、ボク、ノセタヨ…カタ…
「いよいよ福岡でのジョイントコンサートだね」
ボクハ福岡生まれ、ヒップホップ好きナナンダ…カタ…コト…
「君、ヒップホップ系というか、ケルマン系だよね。
ところで、ホセ君の好きな食べ物は何だい？」
「女医トOLが好きナンダ。ウフフ。
「コラッ！福岡ならとんかつラーメンとか言っとけよ！
ちういらいから、最後に意気込みをお願いします」
「今宵ハ、指揮モフルケド、腰モフルヨ…カタク…カタク…カタクカカカカカ…」



TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
小泉 雅資 (文3・愛媛) 佐伯 顕治 (工3・香川) 藤田 隆志 (工3・兵庫) 篠原 好史 (工2・徳島) 新治 俊政 (文3・京都) 山崎 小畑 (工1・京都) 田中 西村 (理1・兵庫)	長和 (工4・広島) 竜太 (工4・山岡) 尚志 (農4・福徳) 彰 (工3・兵庫) 幸三 (工3・大塚) 中野 淳一 (理3・兵庫) 根角 光博 (文3・徳島) 南 美馬 (文1・京都) 山崎 弘章 (法1・兵庫)	川西 智浩 (理4・香島) 鹿島 健 (工4・大岡) 眞鍋 努 (文3・山岡) 野瀬 博昭 (文3・福徳) 宮田 伸和 (文3・兵庫) 毛利 智司 (文3・愛媛) 荒屋 耕介 (文3・滋賀) 山口 雅之 (文2・兵庫) 大友 正也 (工2・鳥取) 田中 宗平 (工2・島根) 月森 底也 (理1・広島) 大坪 勇太 (工1・岡城) 清水 義貴 (工1・愛媛) 土居 正和 (文1・京都) 三木 義貴 (工1・兵庫)	山田 義高 (工4・山岡) 古賀 庸男 (工4・福徳) 石田 太輔 (工3・大塚) 小西 寛平 (文3・兵庫) 里見 晋 祐二 (文3・愛媛) 芝崎 祐太郎 (工3・兵庫) 曾我部大輔 (教2・兵庫) 小林 垣洋利 (工2・兵庫) 小田 正典 (工2・兵取) 藤田 光生 (法2・鳥根) 市川 雅教 (工1・愛媛) 岩崎 正晃 (工1・京都)

4th Stage

九州大学男声合唱団コールアカデミー

九州大学男声合唱団コールアカデミーは、昭和28年、当時在学中の荒谷俊治氏（現在指揮者、日本指揮者協会会長、当団名誉指揮者）を中心とする音楽好きの学生たちによって結成されました。以来藤井凡夫氏（作曲家、「日本楽世者」指揮者）をはじめとする先輩方により発展を続け、2003年には創立50周年を迎え、これを記念して今年10月1日にアクロス福岡シンフォニーホールにて荒谷俊治氏指揮による第49回定期演奏会～創立50周年記念～を行いました。伝統の中で培われてきた「合唱だけにとどまらず、人間の幅を広げ、自治と自由を尊重する」という気風は我々の宝物です。
それでは、50周年を迎えて新たな歴史を歩み始めた九大コールアカデミーの歌声をお楽しみ下さい。

Die Deutschen Lieder ～ドイツの歌～

私達コールアカデミーにとってバイブルとも言える“リターナーシャッツ曲集”には多くのドイツの曲が収録されています。大胆かつ繊細な旋律のドイツの歌は私達の最も慣れ親しんだ歌であり、私達の合唱の原点でもあります。今夜はその中からお選りすぐりの4曲を演奏します

I. Hymne an die Nacht. (夜の讃歌)

“夜”の讃歌とは男女の造瀬など官能的な夜の一面を歌ったもの。さつたりとした河のように流れる旋律が、見事なまでに官能の世界を表現しています

存先のまだ肌寒い中、木々が芽吹き新緑が理山を彩り、人々の心にも陽光が差し込む…。冬から春へ、世界の变化を短調の調べで奏でます。

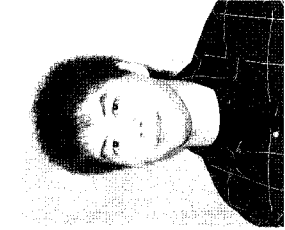
Ⅲ. Blauer Montag. (青い月曜日)

カーニバル期間中のこの日はドイツ全土で盛大なパレードが開催されます。一気に駆け下っていく急流のような旋律に、来たる節食期間の前に人々が一杯大騒ぎするさまがあらうりうかがびます

Ⅳ. Märznacht. (三月の夜)

これら存先の歌、短調で表現される洪水の潮流と長調で表現された春を待ちわびる人々の心情の対比。新緑とはまた一味違う調べを聞き比べてください。

それでは我々の若き歌声を存分にお楽しみ下さい。



学生指揮者 美延 秀昭

福岡県立東葉高校出身。普段団員から「七つつ〜」と呼ばれて親しまれている。このキャビキヤビの愛称と純朴な容貌から好青年という印象があるが、実はかなりのやり手で、一年生の頃には交流のある女声合唱団のメンバー達から誰よりも先に名前を覚えてもらっていた。

性格は割とさびしがり屋で、たまに部屋を訪ねると猫みたいに探り寄ってくる「口」ことちもあるが、ひとたび指揮棒を握ると、王のような洋をこぼしなからち一心不乱に棒を振る堂々たる指揮者に変身する。このギャップが彼の魅力なのである。

今宵は、指揮者・美延秀昭一世一の指揮に酔いしれていただきたい。

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
村島 隆浩 (理3・熊本) 大反田 諒 (理6・ラール) 仲地 義憲 (理M・球陽) 野上 真司 (工4・福岡) 後原 健 (工M・山口) 松田 久 (文3・山崎) 盛永 進 (文3・徳島) 池田 圭志 (文3・多摩) 杉谷 敏彦 (文4・福島) 諸藤 裕 (工4・松北) 清水 隆史 (工3・八幡) 雷成 彰 (文2・大分上野丘)	杉本 競一 (工M2・山崎) 川添 博司 (工M2・浦和) 堀江 武 (文4・鹿島) 植田 峰悠 (文M・高津) 中西 健太 (文4・鹿屋) 島中 智志 (工4・下関) 若松 隆仁 (工3・筑紫) 池上 良平 (理2・修猷) 井上 康孝 (理2・鳥取) 鬼崎 崇輔 (法2・福大) 岩田 季志 (工1・城敷) 小山 慶太郎 (工1・徳敷) 松村 佳祐 (理1・宇部)	三枝 秀之 (理M2・雷同) 宮崎 真人 (理M2・柴丘) 甲斐 新悟 (工4・山口) 水原 弘司 (工4・山崎) 河村 真悟 (理4・市川) 瀧井 翔一 (文4・熊本) 土井 安晃 (文3・筑紫) 井上 浩洋 (工3・大分) 小野 浩介 (理3・下関) 田中 良知 (工3・大分) 藤田 實大 (理3・島原) 泉 圭一郎 (理2・小倉) 宮崎 剛啓 (理2・小倉) 横山 晋祐 (理1・筑陽) 洪田 祐太 (工1・筑陽) 新開 裕士 (工1・筑陽) 山本 明弘 (理1・愛光)	清家 衛哉 (工M・松東) 手島 風生 (工4・筑紫) 福本 辰朗 (工4・北陽) 池田 啓輔 (理4・小城) 森 博幸 (文4・戸雄) 山口 珠巳 (法4・武長) 田原 弘宣 (工3・南) 中村 匡宏 (理3・長崎) 山口 央基 (工3・小城) 大津山 伸広 (理2・久留米附設) 古賀 経2 (法2・福岡) 田中 浩嗣 (理1・博島) 野木 彬成 (理1・大手前高松)

田中良知記す